



発芽の三条件 + 1

①ソクラテスでの時間。

ゆったりと読書をする姿が写っています。

尚、これらの写真は全てメディアクリエイターの増田さんがとってくれています。（子どもたちから「まっすー」の愛称で呼ばれています。）

ちなみに入学式での早業エンディングムービーを作ってくれたのも増田さんです。

通常、公立学校ではこうした写真を全て担任が取らなくてはいけないのですが、SOLAN はそれをプロの方が取ってくれるところが大きな違いです。

私も昨年までの16年間の教員人生では、常にカメラを所持しながら仕事をしていました。

メディアクリエイターの存在一つをとっても本当に有難い限りです。

（増田さんは、一日中学校の色々な所に出向いて下さっています。）





②探究学習が始まりました。

探究学習は三宅先生や鈴木先生、石垣先生など他の学年の先生方にも手伝っていただいています。（ゆくゆくはお家の方にも協力していただきながら共に創り上げていく学習です。）

1年生最初の課題は「?を見つけよう」です。

ラーニングコモンズで、あるいは運動場で。

子どもたちは思い思いの?を探し始めました。

「なんで葉っぱは緑なのかな？」

「木にシマシマの線が入っているのはなんで？」

「茶色っていろんな茶色があるのはなんでだろう？」

「どうして秋になると木の色が変わるの？」

「毎日空の色が少しずつちがうのはなんで？」

見つけた数々の?を、子どもたちは近くにいる総勢10人以上の先生方に伝えに来ました。

その姿に触れるたびに、そもそも子どもは世の中の神秘や不思議さを見つける達人なのだとということがよく分かります。

来週は、学校の近くの神社に学習のフィールドを移す予定です。

子どもたちの？の世界がどのように広がっていくのか、今から楽しみです。



③アサガオの種まきをしました。

ラーニングcommonsから自動ドアをくぐったところにある芝生コーナーに、1年生の鉢植えが約80、ズラリと並びました。

土を入れ、種をまき、水をあげ、楽しみに待つこと約1週間。

ついに待望の芽が最近出始めました。

「先生、出てた出てた！！」

「アサガオの芽が出たよ！」

と全身で喜びを表す姿に、こちらもまた大きな喜びをもらっています。

あんなに小さかった黒い種から、青々とした芽が出てくるのはさぞかし神

秘的で不思議だったのでしょうか。

そういえば、以前、ある学校だよりの小欄に次の内容を寄稿したことがあります。

トマト、アサガオ、トウモロコシ。各学級・委員会で一齐に種まきと苗植えが始まった。芽吹き始めた新緑のコントラストが、学び舎を力強く彩り始めている。

小さな頃、本当に不思議だった“芽生え”の瞬間。後に、発芽に必要な三条件として「酸素」「水分」「温度」を習った。しかし、中にはこの三つが十分揃っていても芽を出さない場合があるという。「休眠」と呼ばれる状態だ。この間、植物は活動を抑え、芽を出すタイミングを見計らう。そして、休眠を打破する重要な要素が「光」である。多くの種子は、暖かな陽の光を感じて発芽を決断し、生命の息吹を開始させている。

芽を出す時機を伺ってじっくり眠る種は、どこか子どもたちの成長に似ている。休眠を打破し、それぞれの可能性の芽が伸びようとする瞬間を、温かく見守っていきたい。

アサガオの育ちを見守る優しい子どもたちの眼差しを、私たちも温かく見守っていききたいと思います。（文責：渡辺道治）

[1学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)